
小さく芽生えた恋

鯛あられ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小さく芽生えた恋

【Nコード】

N5836J

【作者名】

鯛あられ

【あらすじ】

友達の恋人に恋をしてしまった男性視点でのお話。

出逢った頃が幸せだったとか
これからも幸せでありたいとか

きっとそれもあるんだろうけど

大切なのは そんなのじゃなくて

一番大事なのは

今 幸せである ということ

+++++

ただ怖くて 言えないだけなんだ

この部屋には・・・彼の部屋のくせして、彼女のものが結構多い。それはきっと、彼女がこの部屋を第2の住まいとして勝手に利用したりしてるからだと思うけど。

一人暮らしのくせして、洗面所には仲良く歯ブラシが2本。

食器棚の取り出しやすい場所に置かれた食器類も、大抵2客ずつ。タンスを開ければ彼女の服がしまい込まれている。

きつと知らない奴がこの部屋に上がってきたら、

「誰と住んでんの？」なんて聞いてもおかしくないくらい、“一人暮らし”らしくない部屋。

そこが、僕は何よりも嫌いな空間だった。

「あれ、来てたんですか？」

「あ、うん」

今日も当たり前のように彼女は彼の部屋に来た。彼も彼女を客人扱いすらなくなった。

一言で言えば「好き」というものに値するんだろう

僕の中の 彼女の“位置”

それは男が女の子に抱くような
女の子が男に抱くような
ただ純粋な“気持ち”

もしかしたら それより大きな・・・
はるかに純粋な気持ち

“スキ”という気持ち――

だけど。

ただ、僕は。

その気持ちを、彼女に告げる気は全く無かった。

「ね、今日の晩御飯なにがいい？」

「そうだな・・・」

「お友達は何がいいですか？」

なんでもない空気が流れる。

僕の、嫌いな空気。

でも・・・。。。

「僕は何でもいいよ」

この空間に、僕が入らなければ。
彼女は僕を見ようとしなない。

この空間でなければ、この空気は生まれない。

僕に望みなんかあるわけない、と。
分かっている。

なんでもない空気が流れる、この空間。

僕は嫌いなんだ。

でも・・・失いたくないんだ。

嫌いだけど。

何よりも好きなんだ。

彼女と一緒に過ごせるこの時間が。
自分の中でとても大切に。

ただ 壊すのが嫌だから
壊れるのが怖いから 言えないだけなんだ

自分の気持ちを

“ スキ ” という気持ちを――

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5836j/>

小さく芽生えた恋

2010年10月11日15時00分発行